

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北海道羅臼高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒086-1834
北海道目梨郡礼文町9番地の3

E-mail rausu-z0@hokkaido-c.ed.jp

Website http://www.rausu.hokkaido.c.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 45 名 女子 60 名 合計 105 名
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

当校は、平成 29 年度のテーマを「保護者・地域に信頼され、地域の期待に応える学校づくり」として、ESDをふるさとキャリア教育の推進と捉え、ESDの実践を通して「自己管理する力」「自ら学び考える力」「人間関係を築く力」の育成とその基盤となる「主体性」「自己肯定感」の醸成を目標とした。

具体的には、小中高一貫教育におけるふるさとキャリア教育を柱に、①クマ学習・生態系学習、②小中高ボランティア活動、③職業体験学習、④羅臼町活性化活動を実施した。

① クマ学習・生態系学習

知床財団などの協力を得て、ヒグマの生態を正しく理解するとともに、人間がクマに及ぼす影響を把握し、遭遇した時の対処法などを学んだ。「人とクマが共存する町、羅臼」をデータや実体験などから考える体験型の学習である。生態系学習では、川や海の周辺に生息する動植物や海と森をつなぐ知床の豊かな自然の全体像を学んだ。知床は独特な地形により、下流でも上流域の貴重な生物が多数存在することや、地域の環境施設を利用しての講義などで学習を深めた。知床学概論を通して知床の基礎を身につけ、郷土愛を育てている。

② 小中高ボランティア活動

世界自然遺産の町に相応しいマナーやモラルの育成を目指し、小中高生が一堂に会し、羅臼町清掃活動を実施した。高校生をリーダーとして校種の枠を超えて力を合わせることで、自然環境と社会生活との調和を図る環境保全活動を考える良い機会となっている。また、羅臼町の祭事等ボランティアを主体的に実施し、地元の方との交流を深めることによって地域に貢献したいという意欲が湧く機会となった。

③ 職業体験学習

町内外企業や官公庁などの協力のもと、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付け、自分自身を発見し、将来の生き方や進路について主体的に考える力を培うことを目的として職業体験学習を行っている。企業の方々の温かいご指導のもと、挨拶や言葉遣いなど、礼儀の大切さを改めて学ぶ機会となった。

④ 羅臼町活性化活動

本校の創作料理プロジェクト実践研究メンバーは羅臼の食と文化についての理解を深め、新メニューの開発に挑んでいる。地産地消のもと、羅臼の素材を利用したメニューの開発および提供を通じて地域の活性化に努めている。小中学校の給食提供や牧西交流活動として町を訪れた外国人達に地域を紹介しつつメニューを提供した。生徒達はメニューの開発により、地域内外の大人の方々と触れ合い、社会性を高めている。社会と接することで新たな学びが生まれ、自身を振り返り、見つめなおす絶好の機会となっている。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(ふるさとキャリア教育)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(町の祭等)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

羅臼町副読本「知床学」
「キャリア教育」資料集 一文部科学省・国立教育政策研究所一
研究・報告書・手引編 平成27年度版

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ふるさとキャリア教育の観点から、生徒に身に付けさせたい資質・能力の視点を人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力として、教育課程を編成するとともに、各教科や総合的な学習、特別活動で身に付けた資質・能力を様々な場面で効果的に生かせるような工夫をおこなっている。また地域のボランティア活動に主体的に参加できるよう働きかけている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業に3年間取り組んできた成果と課題を明らかにし、学校間連携を一層強化することで、「自己管理する力」「自ら学び考える力」「人間関係を築く力」の育成とその基盤となる「主体性」「自己肯定感」の醸成を目指している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本校の評価項目「地域の魅力を探求し、地域の課題を解決する能力の育成に努めている」について4段階評価で内部3.2、外部3.1、学校評議委員3.4と達成されている評価をいただいた。本校の生徒は学校生活への満足度も高く、達成感や成就感を味わっている。人間関係の形成に向けて、お互いの良さを認め、建設的に話し合える場面を大切にしていかなければならない。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

小中高キャリアサミットフォーラム(札幌)に参加し、地域の自然や産業等の教育資源を生かした取組の充実について、発表を行った。連携を意識した発表を行い、各地の人々から賞賛の声をいただいた。

第6回ユネスコスクール発表会を町内で行い、日頃の生徒の取組を地元の人に見てもらおう機会をつくっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

ESDを通じて、立教大学生との交流や、米国教員との懇談を持ち、生徒は様々な人との関わりを持つことができている。またふるさと教育の充実のため地域とのつながりを意識した授業やボランティア活動を通して充実した学生生活を送っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

知床ユネスコ協会を通じて、児童生徒達の育成に力を入れていただいている。またユネスコ全道大会に参加し、様々な地域との関わり合いを持たせていただいている。また本町にてESD講習会を開き、各地のESDの取組について研修を積んでいる。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ふるさとキャリア教育の実践を通して、「ふるさと羅臼」への理解が増している。また羅臼町にどういったかたちで貢献できるか考える生徒が少しずつではあるが増えてきている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

本校の ESD 委員会を活性化し、年度の計画をたて、実践を地域に発信していく。